

わくわくドキドキならはらテクテク

2026. 3. 29 N027 ならはらの森なかの学舎



なら原っ子「あれあれ？だれかと思えば、モンタ博士が来ているぞ。」

なら原っ子「今日は、何をしに来てくれたんですか。あ！ピンク色の何かが見えるよ。」

モンタ博士「みなさん！こんにちは。今日はね、みんなでサクラガイの観察をしよう、
思ってね、たくさんのサクラガイを持って来たよ。みんなで手のひらに乗せて見ていいよ。」



なら原っ子「何だかとってもうすい感じの貝ですね。」

なら原っ子「へえー。こんな貝があるなんて、ぼく初めて知りました。」

なら原っ子「もう少し近くで見よう！」



なら原っ子「よく見ると、とってもきれいな貝ですね。」

なら原っ子「こんなのが、海の中で生きていたなんて、信じられないなあ。」

なら原っ子「これは、海からの贈り物だね。プレゼントだね。」

モンタ博士「贈り物！プレゼント！そう言ってくれると、うれしいなあ。それでは、
もっと近くで、いろいろと観察してごらん。」



なら原っ子「割れているのもいっぱいありますね。」

なら原っ子「とってもうすいから、すぐに割れてしまうんですね。」

なら原っ子「それから、丸い小さな穴のあいた
サクラガイもあるんだね。」
モンタ博士「よく気がついたね。では、どうして
穴があるんだろうね。考えてごらん。」
なら原っ子「ふーむ。そうだな。よくわかんない
なあ。これはなぞだなあ。」
モンタ博士「間違ってもいいから、言ってごらん。
自由に自分の考えを言っていーいよ。」



なら原っ子「自然にあいたのかな。何かにあけられたのかな。分かんないなあ。」
モンタ博士「何かにあけられた！その通りだよ。では、その犯人はだれだろうねえ。」
なら原っ子「そうだ。犯人は、魚かな、それとも、エビとか、カニとかかな。」
なら原っ子「タコやイカかもしれないぞ。ヒトデとかクラゲかもしれないなあ。」
モンタ博士「答えはね、サクラガイと同じ仲間の貝なんだ。ツメタガイというのが犯人さ。」
なら原っ子「へえー。そんなのがいるんだ。どんな貝なのかな。」
モンタ博士「右の写真を見てごらん。」

なら原っ子「でも、どうやって、サクラガイ貝
に穴をあげるのかな。」
モンタ博士「よく聞いてくれたね。ツメタガイ
には『歯舌』(しぜつ)という
ヤスリがあつてね、それと、酸性の
消化液を使って穴をあけてしまうのさ。」

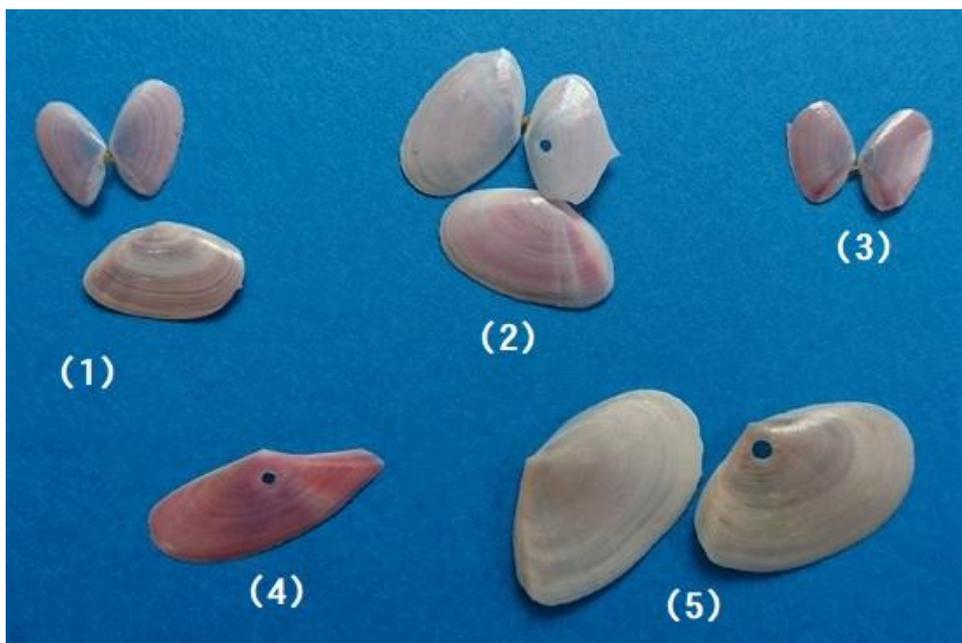


なら原っ子「へえー。すごい貝もいるんですね。」
なら原っ子「貝って、本当にいろいろとあつて、おもしろい世界なんですね。」
モンタ博士「まだまだ驚くのは早いよ。それでは、次に、こんな大きな貝もあるんだよ。」
なら原っ子「うわあー。すごいね。重いですね。色も形ももようも、いろいろとあるんで
すね。」
モンタ博士「すごいだろう。これらの貝は、もちろん自分で拾ったのもあるけど、
友達にもらったものとか、ベトナムという国に行った時に、ハロン湾のお店
で買ったんだよ。さあ、みんなで手の上に乗せてみよう！」

モンタ博士「それから、桜の花吹雪を作ったんだ。見て見て！」



コラム・・・サクラガイについて



いろいろなサクラガイについての説明

① サクラガイ	見分け方のポイントは、貝どうし繋がっている部分が少し尖った感じになっています。また、色が濃い個体が多いようです。
② カバザクラ	サクラガイよりも丸みを帯びた感じです。パステルカラーのようにいろいろな色があり、写真ではありませんが、オレンジ色の個体もあるようです。
③ モモノハナガイ	サクラガイやカバザクラに比べて、少し厚めです。形が全体的に尖っていて、縞の模様もくっきりとしています。
④ ベニガイ	鎌倉の海岸では2つしか見つけていません。とても珍しいサクラガイです。逗子海岸に行くと、かなり多く拾えるという情報もあります。

⑤ オオモノハナガイ	モノハナガイをビックにしたような貝です。大きなので、海岸では比較的に見つけやすい貝です。とても厚いのですが、大きな個体ほど色が薄く白っぽいようです。
------------	--

5種のサクラガイはどれも鎌倉の由比ガ浜・材木座海岸で採集したものです。少し歩けば数十個は採ることができます。但し、無傷なものは少なく割れていたり、他の貝に食べられ穴が開いていたりする個体もあります。サクラガイはとても薄い貝なので、波打ち際には、ピンクの色合いはややハッキリせずに、透明のように見えます。なお、由比ガ浜には、「桜貝の碑」というものがあり、「桜貝の歌」の歌詞が書かれています。昭和の歌で、随分と古い歌ですが、その頃は、砂浜に、サクラガイが絨毯のように打ち上げられていたそうです。